

## 2011（平成 23）年 7 月度研究交流例会

2011 年 3 月度研究交流例会は、東北大震災のために中止されましたが、下記の要領で改めて開催することになりましたので、是非ご参加ください。今回は企業行動研究会所属、当学会常務理事の古山英二氏と、創価大学、神奈川大学講師、経営学博士でネパール出身のビシュワ・ラズ・カンドル氏の報告を予定しております。

記

1) 日時：平成 23（2011）年 7 月 2 日（土） 午後 1 4 時より午後 1 7 時

2) 場所：経営倫理実践研究センターセミナー室（地図→）

### 3) テーマおよび報告者

①14 時 00 分～15 時 20 分：「IFRS（国際財務報告基準）と経営倫理」古山英二氏（当学会常務理事・企業行動研究部会所属）

②15 時 30 分～16 時 50 分：「インドの財閥とコーポレートガバナンス—タタ財閥の不祥事をめぐって—」ビシュワ・ラズ・カンドル氏

**報告①概要：**「国際会計基準」「IFRS」関連新聞記事を、2008 年 8 月から 2011 年 1 月までの期間で収集すると 30 件ほどになる。日本会計研究学会会長平松一夫関西学院大学商学部教授は、2010 年 10 月 12 日開催された「日本経済学連合会創立 60 周年記念講演会」において「国際会計基準の課題と展望：日本の役割」と題し講演し「世界的金融危機の中、日本は G20 の一員として IFRS の推進にコミットしている。IFRS は日本にとって国際公約である。従来の会計基準と IFRS との間には技術的相違点があることは事実だが細目にこだわることなく、会計基準の本質に遡って理解を深める必要がある。」と指摘、「会計大学院で倫理性・国際性・専門性に於いて国際水準の会計人の育成がなされなければ、日本の会計は世界から尊敬されないことになる。」と述べておられた。会計と経営倫理、IFRS と経営倫理との本質的關係を論ずる。

**報告②概要：**コーポレート・ガバナンスの問題は、1990 年代に入って、世界的に強い関心を呼び、特に先進国では、それが盛んに議論されている。日本についてこれを見ると、平田光弘(2001 年)によれば、第 1 に、企業不祥事の再発防止、第 2 には、企業競争力の強化においてどのような経営の意思決定及び経営監視・牽制の仕組みが望ましいかが論じられている。傍ら、インドにおいては企業不祥事が続発している。例えば 2009 年 1 月、インド IT 業界第 4 位のサティヤム・コンピュータ・サービスの粉飾決算の発覚や昨年、大手インド財閥である TATA 財閥も第 2 世代（2G）携帯電話サービス用の周波数割り当てをめぐる不正疑惑問題に政府の委員会から事情聴取を受けている。このような問題によってインドのコーポレート・ガバナンスに関して新たな議論をすることが必要となった。

4) 参加費正会員：2,000 円学生：1,000 円（当日、例会会場にて申し受けます）

5) 出欠の確認：6 月 29 日(水)迄に [E-mail](#) または Fax にてご連絡ください。Fax フォーム→